


突線流水文銅鐸 附貨泉25枚、棒状銅製品1個



指定区分	国指定重要文化財(考古資料)
読みかた	とっせんりゆうすいもんどうたく つけたり かせんにじゅうごまい ぼうじょうどうせい ひんいっこ
所在地	岡山市北区後樂園 岡山県立博物館
指定年月日	平成12年12月4日
解説	高塚遺跡は、弥生時代から中世にわたる複合遺跡であり、弥生時代後期の資料が数多く出土している。この銅鐸は、高さ約58.0cmで、流水文と呼ばれる模様で飾られている。貨泉は1世紀の中国の銅銭で、同一遺跡から出土した枚数としては全国で最も多く、伴出した弥生土器の実年代を知る資料としても貴重である。棒状銅製品は銅の素材と考えられるものである。
アクセス方法	JR岡山駅から徒歩約25分／路面電車「城下」下車徒歩約10分／岡電バス「後樂園前」下車すぐ
公開状況	岡山県立博物館保管
設備	駐車場は岡山後樂園駐車場を利用。 駐車場トイレ障害者用駐車場 
備考	

## きつずページ



していくぶん (指定区分)	国指定重要文化財(考古資料)
ぶんかざいめい (文化財名)	突線流水文銅鐸 附貨泉25枚、棒状銅製品1個
よみかた	とっせんりゅうすいもんどうたく つけたり かせんにじゅうごまい ぼうじょうどうせい ひんいっこ
しょざいち (所在地)	岡山市北区後楽園 岡山県立博物館
していたひ (指定した日)	平成12年12月4日
せつめい	銅鐸は弥生時代(やよいじだい)に祭(まつ)りや儀式(ぎしき)などで使われたと考えられています。この銅鐸は、岡山平野(おかやまへいや)のまんなかあたりにある高塚遺跡(たかつかいせき)というところから発掘(はくつ)されました。高塚遺跡からはほかにもそのころのお金などもたくさん見つかりました。